



〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



みんなで協力して
美味しいお弁当をつくりましょう♪

まずは材料選びね!



美味しいお弁当をつくろう!

お気に入りの具材を配置していきます

5月誕生日会

お弁当をつくりたい!



僕は和食派なの

そうなんです



私のこのお弁当...

皆さん真剣そのもの!



徐々ににぎやかになってきました



さすがです

野菜も大事なの!

さあ、もうすぐ完成です



みなさんのごだわりの詰まった、
美味しそうなお弁当がたくさんできました!

～目次～

- 病院短信 藤田 靖子
- 日常の一コマ 國井 文江
- いきいき看護・介護 佐藤 ヒロ子
- 作業療法科だより 栗田 歩
- 5月誕生日会 デイルームにて
- スタッフ紹介 笹渡 敬子

6月の予定



◇誕生日会

1病棟	6月12日(月)
2病棟	6月16日(金)
3病棟	6月5日(月)
各病棟デイルーム 14:00~	

スタッフ紹介

2病棟 介護福祉士
ささわたりに 敬子

血液型: AB型
星座: 水瓶座
趣味: 温泉巡り



3月に入社して3ヶ月が経ちました。まだまだ要領良くこなせない仕事も、先輩方に助けをいただきながら頑張っています。コロナ規制の緩和が進んで面会も出来るようになり、患者さんの笑顔も増えてきました。以前のような平穏な日常が一日も早く戻れば良いなと願っています。



病院短信

医師 藤田 靖子

『患者さんへの接し方』

約8年務めた川越セントノア病院の院長職を後進に譲り、年齢のことも考えて引退しようと思っていました。事務局長の勧めで、春日部セントノア病院で勤務を始めて早1年が経過しようとしています。春日部の地には昔から馴染みがあるので、多少の懐かしさを感じつつ毎日通勤しています。皆様もご存じとは思いますが、当院は入院期間に制限を設けていません。長期に渡る入院生活を如何に穏やかに過ごしていただくか、そのことを常にスタッフと話し合いながら、患者さん一人ひとりにマッチした対応方法を模索する毎日です。最近では、認知症のケア技法であるユマニチュードも取り入れて、患者さんに話しかける時は顔と顔を近づけて視線を合わせながら、ゆっくり話しかけることを心がけています。ただ私は、少し違った観点から患者さんに幸せを感じてもらえるのでは、と思うことがあります。

認知症の方は最近の出来事を記憶にとどめることが出来ません。中には直前に話したことすら忘れてしまう方もいます。ところが若い頃や働き盛りの頃のことはしっかりと覚えていて、たまに得意げに話してくださることがあります。その時の表情はとてもイキイキとされているのです。東京の郵便局に定年まで勤めた患者さんは、「細かいことを覚えるのに苦労をしたんだ」と真剣に話してくれました。歌を教えたという患者さんに「どんな歌を教えたの？」と聞くと、「ジャンソンだよ」とにっこり笑顔。また、「タクシーの運転手を45年もやっていた銀座にもよく行ったよ」という患者さんは、釣銭を入れる箱をよく探しています。他にも、「秋田でダンスや机を作っていた」と楽しそうに話される患者さんや、「2年前まで神田で肉屋をしていて、大きな牛肉や豚肉を切っていたよ」と得意げに話される患者さん。会話はできませんが、いつも口をもぐもぐ動かしている患者さんは、ご家族のお話によると、ご自宅にいる時から常にお経を唱えていたそうで、今もそれをするので幸せを感じていらっしやるのではないのでしょうか。さらに、ある女性の患者さんは市議員を4年間されていたことがあるそうです。「大変だったでしょ」と声をかけると「皆さんの意見を聞いてあげるのですよ」との返答。現職の議員さんに聞かせてあげたいと思うほどの素晴らしい考えを持っていらっしやいます。

患者さんにはそれぞれ歴史があります。コミユニケーションを取りながら過去の楽しかったことや苦労したことなどを引き出して、じっくりと耳を傾けることも穏やかに過ごしていただく一つの手法かなと考えています。また、家族の方が面会に来られて、優しく微笑みながらひと時の団欒を楽しんでいる姿を見かけると、とても嬉しい気持ちになります。これからも患者さんに少しでも穏やかに楽しく過ごしていただくために、スタッフ一同頑張っていこうと思います。

日常の一コマ

今月は3病棟の紀代子さん(83歳)をご紹介します。紀代子さんは秋田県にて生まれ育ち、高校卒業後は埼玉県の金物屋に勤めました。22歳で結婚、3人のお子さんに恵まれ、ご主人の会社の手伝いをしたりパートに出たりして、72歳頃まで働いていたそうです。

平成9年にご主人に先立たれた紀代子さんは、平成23年頃から認知症と思われる症状が出始めました。初期の頃はもの忘れ程度だったのですが、車で行ったスーパーから歩いて帰ってきてしまったり、通帳や印鑑をたびたび失くしたりしたため、近くのクリニックを受診したところ、アルツハイマー型認知症と診断されました。

同居の長男さんや近くに住む二男さんと長女さんの支えもあり、しばらくは内服治療とデイサービスを利用しながら生活していましたが、徐々に紀代子さんの認知症は深刻さを増していき、妄想や徘徊、幻視といった症状までみられるようになったそうです。外出先で警察に保護されることもたびたびあり、在宅での生活が限界を迎えたため、令和4年3月にグループホームへ入所しましたが、それでも紀代子さんが落ち着くことはなく、スタッフや他の入所者さんへの暴力などもあって、1か月後には精神科の病院に転院、身体拘束を余儀なくされていました。そして、知人からの紹介で当院を知ったご家族の意向により、令和4年7月、当院に入院することとなりました。

入院直後の紀代子さんは、表情も暗く、極度な前傾姿勢でした。落ち着かない様子で廊下を何往復も徘徊する紀代子さんには、スタッフが常に付き添い歩行をしながら見守り続けました。時に付き添いを嫌がり、怒ることもありましたが、そんな時は少し離れて一緒に歩くようにしました。入院前に処方された向精神薬を調整(減量)することにより前傾姿勢もなくなってきて、紀代子さんもスタッフに信頼を寄せてくれるようになり、今では遠目で見守りつつ、自由に院内やお庭を散歩しています。

紀代子さんは若い時からスポーツ万能・多趣味だそうで、活発で陽気、そして茶目っ気たっぷりなお人柄です。スタッフと話す時も紀代子さんはいつもおちゃらけていて、足を上げたりジャンプを見せたり、ボクシングや相撲のマネをしたり。暴力行為で身体拘束されていたとは思えないほど楽しそうに過ごされています。そんな時の紀代子さんの満面の笑みは最高です。



ご家族との面会後に声をかけると、「家族…そうね、みんな優しいね。私も優しくしてます。嫁も私の息子の嫁になってくれたんだから、何物にも代えがたいでしょ。もちろん私も優しいですから。」と自分をアピールすることを忘れない紀代子さん(笑)。そのあと「おーほほほ…」と手を口に当てながらお姫様のように笑って、いつものおちゃらけを見せてくれました。これからも転倒には充分注意しながら見守り、笑顔いっぱいの紀代子さんと楽しく過ごしていきたいと思います。

3病棟看護師 國井 文江

作業療法科 だより

作業療法士 栗田 歩

初夏の訪れ、道行く人の服装もすっかり軽やかになりました。今回は、初夏を感じる「菖蒲」の作品を作成した会をご紹介します。毎週定期的に行っている創作の会とは別に、月に一度ほど開催している創作の会があります。既存の創作の会では、毎週継続して一か月ほどかけて一つの大きな作品を完成させますが、この会では個々に作品を仕上げその日のうちに完成です。患者さんには、前回に実施した事を記憶しているのが難しいという方・周囲とペースを合わせるのが難しい方・ほんのわずかの時間であれば集中して取り組める方など様々いらっしゃいます。その方たちにも、その人のペースに合わせて取り組めるようにと始まったのが、この会なのです。



毎回、季節を感じられるテーマの物を作っています。今回は「菖蒲」。色鉛筆で色をつけてもらいました。見本に忠実に細かな部分にまで気を配り塗る方・大胆な鉛筆使いで塗る方・何色も色を重ねて独創的に塗る方など、一人一人個性の光る仕上がりとなりました。「色鉛筆なんて使ったのは、学生の時以来だよ」「あら、あなたの作品とっても素敵ね」などの言葉も飛び交います。それぞれの作品が仕上がったら大きな台紙に作品を張り合わせて完成です。「あら、いいじゃない!」「わあ、きれい!」「素敵ね♪」と感嘆の声があがりました。この作品は今、デイルームの空間を華やかに彩ってくれています。

いきいき看護・介護

1病棟介護主任 佐藤 ヒロ子

今回は日頃のデイルームの様子をご紹介します。実は患者さん同士でも派閥(?)みたいなものがあるのですが、皆さん想像つきますか。どんな派閥かというと:カーテンを開けたい派か閉めたい派か、またテレビ番組の好みがニュース派かドラマ派か、というようなミニ派閥なんです(笑)。それでも、患者さんの精神状態によっては口論になったりトラブルになったりすることもありますが、そんな時はスタッフが仲裁に入りますが、落ち着いたかと思うと数分後に再燃していたり、口論していたのが嘘のように笑って話していたりするのです。ひと時も目を離してはいられません。患者さんの中には、おしぼりやエプロンをたたむ作業のお手伝いをして下さる方もいらっしやるのですが、他の患者さんを数人呼んで「こうやるのよ」と指導している光景をよく目にします。若い時に何のお仕事をされていたのか聞くと、社員寮の寮母さんだったらしく:なるほど納得(笑)。性格も今まで過ごした環境も全く違う患者さんたちが、今の環境に身を置くことだけでも大変なことだと思えます。だからこそ、私たちの言葉や接し方で少しでも安心して笑顔で過ごして頂けるよう心掛けていきたいと思っています。患者さんは、ご家族の皆さんと会えることを何より楽しみにしています。面会規制もだいぶ緩和されたので、ぜひ面会にお越しください。ゆっくり顔を合わせて、手を繋いで、笑顔でたくさんお話いただけたら、と思います。

